

2022.06.12. 神の涙 Mac 牧師

日曜日は、2つの礼拝があり、第一礼拝は通常「聖書預言・アップデート」第二礼拝は通常「聖書の学び」に捧げますが、今日は、2つの説教をします。1つ目の説教では、皆さんを「ヨハネの福音書 11 章 35 節」に招きます。可能な方は、今朝の箇所を読むのにご起立ください。繰り返しますが、「ヨハネの福音書 11 章 35 節」この 1 節が聖句にあります。では御言葉をお読みします。

ヨハネ 11

35 イエスは涙を流された。

祈りましょう。今朝の学びに祝福下さるよう主にお祈りしましょう。

愛する天のお父様。あなたの御言葉を受け取れるようどうか私たちの心を整えて下さいますように。あなたの家に集まれるようしてくださりあなたに感謝します。そうすることで、あなたの聖霊の御力によって、あなたが私たちにここで出会って下さり、御言葉の真理へ導いて下さいますように。私たちがこの御言葉を心に刻み、生活の中で実践できますように。ですから主よ、あなたの子どもたちにお語り下さい。私たち皆が飢えており、耳を傾けています。救世主イエスの力強い御名によって。アーメン。ありがとうございます。着席ください。今朝の最初の学びのタイトルは、「神の涙」です。このような節へのタイトルは、聖書の中でここにしかありません。この箇所には、涙を流しておられる世の救い主がおられます。イエスが涙を流される聖句が記されているのはこの箇所だけではありません。たぶん他の福音書を通して、それは、もっと理解しやすいのですが、でも「ヨハネの福音書」のこの箇所が、本当に私に語りかけます。要するに、「ヨハネの福音書」は、イエスの神性に焦点を当てていることは、以前にもお話ししました。この書は、イエスが確かに神であることを過剰に表現します。そして「ヨハネの福音書」のこの箇所に、このように短いけれど、鋭い一節があります。「イエスは涙を流された。」神の御子が、人の子が泣かれる。聖霊は、使徒ヨハネや他の人々に、真の生ける神のこの重要な側面を捕らえるよう靈感を与えたのです。私たちは、神の姿に似せて作られました。これによって、私たちは創造主との繋がりをより一層持つことができるはずですが、神が涙を流される事実が、一部のクリスチャンを混乱させます。しかし、そうなるべきではありません。真の生ける神が、私たち誰一人として共感できない超越的な感情を示されるだけなら、私たちはもっと心配すべきです。それは問題でしょう。あるいは、こういう厳しい感情だけなら。「あなたがたはこれをあれをそれをしてはならない。」(モーセの十戒) ですよ？

怒りの感情だけではどうでしょうか？ 裁きだけです。それは愛の神ではありません。それなら私たちが共感できる個人的な神ではありません。違います。しかしこの本物の涙、この神の涙は、私たちの注意を引くはずですが、主がご自分の民、人類、被造物全体に対して抱いておられる心情に注意を引かれる筈です。それが愛にあふれた神です。悲しい事に、特に男性にとって、涙を流すことは弱い、または泣き虫だと思われがちです。誤解のないようにお願いします。私たちは皆、時に泣き虫になったり、意味不明なことで泣いたりします。私たちは、その愚かな道を歩んできました。しかし、中には感情的になって、すぐに壊れてしまう人もいます。また、ほとんど感情を持たない人もいて、決して壊れることはないように見えます。しかし、心配や悲しみの涙は、弱いという事とイコールではありません。泣く人よりも泣かない人の方が弱いと私は言わせて頂きます。彼らは、その悲しみや苦しみを泣いて出すのではなく、怒りを爆発させるか、激怒するからです。それから泣き出します。それは間違った手段です。それが彼らのおもな解放感になるのです。私の話している意味分かりますね？ 彼らの言い方は、「人を傷つけろ！人を傷つけろ！」他人を傷つけるのは、重度の弱者です。それが弱さです。そして全く涙を流さないのは、心遣い

の不足を表すことが多く、そして全てを心に秘め、爆発する。そして取り乱す。自制心がないと、弱くなり、傷つき易い。それが涙を流すか流さないかです。「箴言 25 章 28 節」に記されています。神の御言葉をお読みします。

箴言 25

28 自分の霊を制することができない人は、城壁のない、打ち破られた町。

言い換えれば、自分自身をコントロールできなくなった時、私たちは完全に無防備になり、何より敵に気づかれてしまいます。自分のすべての防御力が低下し、これが、私たちが何か愚かなことをすることに繋がる可能性があり、よくそうなります。そう思いませんか？ 私たち全員とは言わないまでも、ほとんどの人がこの道を歩んできたのは間違いありません。私たちはこのようなことをするたび、御霊の実に重要な構成要素を表していません。それが、御霊の実＝自制です。(ガラテヤ 5:23)

砕け落ちるのは、正しい方法では、良いものです。とても良いことです。私たち一人ひとりが考えるべきことを、神ご自身が示してくださっています。私たちはこの理解を得るため祈らなければなりません。なぜなら、このことが本当に理解されれば、主との独特な親密さが生まれ、主へのアプローチだけでなく、他の人へのアプローチも変わってくるはずで、すなわち、主のお許しを得て、まず、聖書の中に収められているイエスが涙を流された記述を見て、説明したいと思います。それから、主に泣き叫ぶことの意味と姿の一端を考えたいと思います。そうすることでこんにちの私たちのために実践してみようと思います。最後に、たぶん最も重要なのは、神の御言葉の権威に基づき、いつの日か、神の涙が止まり、キリスト・イエスにある者には、涙は全く必要なくなると、すべての人に断言します。

それでは、最初の記述を見ましょう。どれも良く知られていますが、主は私たち皆のために、ここに何かをご用意しておられるのを祈ります。「ヨハネの福音書」のこの記述から始めます。実はこれが、イエスの公職の年代順でイエスが泣かれた正に最初の記録だからです。殆どの方が思い出す通り、聖書通り、イエスが深く愛しておられた友人ラザロとマルタ、マリアにまつわる出来事についてイエスが泣いておられます。よくこの記述を読むとき、私たちは、なぜイエスが泣かれたのか、その意味を見過ごすことがあると思います。泣かれた理由、泣かれた時について迫ってみたいと思います。その理由は、悲しむ全ての人へのイエスの思いやりと、死が当時の人々に対してあった力が故です。イエスがこのタイミングで泣かれたのは、私の目から見ると、それを物語っています。というのも、考えてみてください。ラザロが病気で、人々がイエスの所へ来た時、イエスは彼らに、ラザロの病気は死で終わらない、神の栄光のためだと仰いました。(ヨハネ 11:4)

ですからイエスは、さらにもう 2 日間、その場に留まっておられました。(ヨハネ 11:6)

それから 11 章 14 節 15 節に

ヨハネ 11

14 そこで、イエスは弟子たちに、今度ははっきりと言われた。「ラザロは死にました。」

注意してください。この時点で、涙を流されたとは書いていません。イエスは、マルタとマリアに話をした後まで、泣かれることはありませんでした。それから、他の人々が同様に泣いている洞窟に行かれました。また聖句には、イエスが霊に憤りを覚え、と記されています。(11:38)

解説者方は色々な見解を言いますが、私が同意するのは、この御霊が憤りを覚えられたのは、死がもたらすものに対して憤りを感じられたからです。だからイエスは嘆かれたのです。死が引き起こすものを見られたから。死は現実の出来事です。泣いている者と共に泣く (ローマ 12:15)

これが神の御言葉が語る事です。それが神のご性質だからです。イエスは、痛みを感じている者と共に痛みを感じておられます。「ローマ人への手紙 12 章 15 節」お読みします。

ローマ 12

15 喜んでいる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣きなさい。

この一節を心に留めてください。特に、泣いている者たちとともに泣くという部分を。これを考えて下さい。イエスは、ラザロをよみがえらせ、最後に死に打ち勝つと分かっておられながら、泣いておられるのです。なのに、イエスはなお泣いておられます。イエスは、死が人々に与える影響を取り除くことができないのを知っておられたからです。それが真の思いやりです。キリスト・イエスにある私たちは、死んだらどこに行くのかははっきり分かっています。しかしそれでも、兄弟姉妹が死ぬと、彼らの行き先が分かっているにもかかわらず私たちはなお彼らのために泣きます。泣きませんか？ 私たちはまだ嘆き悲しみます。世が嘆くようなものではありません。なぜなら私たちは、その祝福ある希望が保証されていることを知りながら、嘆き悲しむのです。しかし、私たちはなお嘆き、泣きます。死は現実です。イエスがそのために泣かれたことは、クリスチャンとしての私たちに何かを教えるはずで、それを考えましょう。こんにち、非常に悲しい事に、私たちは自分がしたいことをするために、死の苦しみを見過ごしがちです。言い換えれば、死は、真に嘆くことではありません。人の死は勝利のために利用されているのです。これはいわば、どこもかしこもです。不幸な出来事が起きるとすぐに人々が知りたいのは誰がそれをしたかであり、誰が死んだかには関心がない。殺された人は、埋葬される前に忘れ去られてしまう。これが今の世です。その代わりに、人が知りたいのは、

「白人か？ 黒人か？」「警官か？ 犯罪者か？」「不法滞在者か？ 合法的市民か？」それから、誰が誰の手で死んだかによって、議題と合致する限り、心配するふりをする。全て見せかけです。自分の主張を証明するため、人々をこちらの主張に引きつけるため、その過程で踏みにじられた亡くなった人の事は忘れてしまっているのです。死は単なる宣伝の道具と化しています。私の言っていることが皆さんよく分かると思います。悲劇的な出来事を基にした主張ができないとは言いません。なぜなら、そういう主張はあり得るからです。しかしそれが、こんにち、起こっている事例ではほとんどありません。違います。政治的で、哀れです。死に対して無感覚になることは許されません。そもそもなぜ死があるのか、その理由を明らかにして説明する必要があります。その答えは、「罪」です。「神への反逆」です。

「罪の報酬は死です。」(ローマ 6:23)

罪そのものが悪です。皆さん分かっている事を確認させて下さい。悪に色はありません。悪は悪です。地上に悪のない民族はありません。事実、イエスがおられないと、私たち誰しものが悪です。そして悪は死を愛します。クリスチャンとして、私たちも、イエスがそうであられたように、死を真摯に受け止め、泣くべきで、死に対して、唯一の命の源である神のもとへ人々を導くことです。それが私たちの働きです。議会での法案ではありません。大富豪でも、警察の力でもありません。すべての銃の撤去じゃありません。これやあれやそれがこの地上の悪を止めるものではありません。神の善意による心の変化だけが、これらの結果を変えるのです。人々が、主からしか得られない慈愛の心を持つまで、全ての悪はずっと続き、さらに悪化し続けるでしょう。ようこそ、悪魔の遊び場へ。それが私たちのいる場所(地上)です。知っておいてください。これらの邪悪な事件、大量殺戮、その他全てに直接影響を受けている人は、犯罪者の背景を過剰に気にしているとは本当に思えません。そんな電話が来るのなんてあり得ませんが、例えばこうです。

「マッケイテンさんですか?」「はい。」「誰それはあなたの息子さんですか?」「はい。」「ノーフォーク警察です。ご息子が撃たれ、亡くなられました。」

私がこう答えるのを想像してみてください。「撃ったのは白人ですか?」考えてみてください。この人たちは悲しんでいるんです。彼らは傷ついています。死は現実です。

イエスを信じる私たちは、神の涙を表わすことにもっと時間を割く必要があります。悪の正体を暴きながら、聖霊の御力によって、死を一時的な出来事となされる唯一の方に人々を導く事。これは、イエスを通してのみ起こります。また、私たちの神が、私たちの痛みを知っておられることを心から感謝せばなりません。神は、たとえ私たちの目に見えなくてもそれに対して何かをなさっておられます。聖書にある通り、神は、私たちの痛みを知っておられるだけでなく、私たちの悲しみや痛みも感じられるのがはっきり分かります。これらは、真の生ける神の側面であり、ご性質です。「イザヤ書 63 章 9 節」神の御言葉をお読みします。

イザヤ 63

9 彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、主の臨在の御使いが彼らを救った。その愛とあわれみによって、主は彼らを贖い、昔からずっと彼らを背負い、担ってくださった。

この冒頭、分かりましたか? 「彼らが苦しむとき、いつも主も苦しみ」彼らが苦悩するとき、いつも主も苦悩され、私たちの神は私たちを感じてくださる。主は、私たちの痛みと感情に共におられるのです。もし私たちが主を知りさえすれば、主の愛と憐れみを知ることができます。ダビデ王はこれをはっきり知っていました。神の聖霊によって、彼は、この言葉を書き記します。「詩篇 56 篇 8 節」、お読みします。

詩篇 56

8 あなたは 私のさすらいを記しておられます。... (悲しみと訳されている翻訳もあります) ...どうか私の涙を あなたの皮袋に蓄えてください。それとも あなたの書に記されていないのですか。

これ分かりますか? 神は、私たちの気持ちを分かってくださっていて、見過ごすことはあられません。私たちの涙を一滴も、見落とされません。それが神です。その全てを分かっておられます。つまり、どんな最後の涙一粒でも御言葉通り、捕らえておられます。それが全てを物語っています。どんな涙も無駄になりません。しかし、私たちの多くは、その涙の恩恵にあずかることはなく、見下すようになり、神が、痛みを何とかしてくれないことに腹を立てます。答えがないかのように。しかし主は答えられます。私たちの知らないことを知っておられます。私たちは、理解できないときでも、主を信頼することを学ばなければなりません。完全に理解しておられます。私たちのことと、私たちが流したあらゆる涙を。主の民として、私たちも、神の涙の一つ一つを理解するよう努めなければなりません。それを踏まえて、イエスが涙を流される次の出来事に進みます。「ルカの福音書」に、救い主が涙を流された 2 つ目の記述があります。多くの方がご存知のように「ルカの福音書」は、イエス・キリストの人間性に焦点を当てています。イエスの公職のこの時点で、十字架にかかれる前の最後の一週間でした。今から読む節の前に、イエスはオリーブ山の麓でロバに乗られ、イエスに従う者たち、大勢の弟子たちが大声で歌っていました。

「祝福あれ、主の御名によって来られる方、王に。天には平和があるように。栄光がいと高き所にあるように。」(ルカ 19:38)

パリサイ人たちは、彼らがこれを歌っているのを聞いて、イエスに弟子たちを叱るよう言いました。しかしイエスは、パリサイ人を叱りました。ここで、想像してみてください。イエスだけでなく、弟子たちもどれほど興奮していたことでしょうか。このエネルギー、このポジティブな勢いを期待していたことし

よう。電撃的なものでなければならなかった。この大群衆の弟子たち。12人の弟子ではありませんよ。過越祭の前ですから。何人いたと思います？ 12なら話にもなりません。大勢の弟子たちです。だから、パリサイ人たちは動揺したんです。非常に多数がこれを歌っていたのです。喜びいっぱい。これを想像してください。全ての人々が大声で、興奮して、喜びいっぱい。そしてこの後の、「ルカの福音書 19 章 41 節 42 節」、神の御言葉をお読みします。

ルカ 19

41 エルサレムに近づいて、都をご覧になったイエスは、この都のために泣いて、言われた。

42 「もし、平和に向かう道を、この日おまえも知っていたら——。しかし今、それはおまえの目から隠されている。」

これが、エルサレムのために泣いておられるイエスです。イエスは街に近づかれ、あらゆることを知られ、街の運命に涙されるようになられました。今までの興奮は、街を目の前にして一気に吹き飛びます。この感情の変化、素早さ分かりますか？ 私たちが分かるよう祈ります。イエスは注意を払い、どんな喜びがあっても、どんなに深遠で、あるいは今を生きていようとこれから起こる悲惨な現実を覆い隠すことを許されません。42 節で、私に分かるのは、イエスは泣いて叫ばれたのです。

「おまえも知っていたら——。」翻訳によっては、「もしもおまえが、知ってさえいれば——。」そこに含まれるその感情の大きさをご想像ください。そして泣いておられます「もし、あなたが知ってさえいれば」彼らが何を知るべきだったのか、後で戻りましょう。しかしイエスは、この時の何かが特別だったことを明らかにしておられます。なぜなら主は続けて言われます。「この日に。」イエスがここで何を仰っているのかを理解するのが、非常に重要です。この日というのは、彼らの当時でした。この日というのは、「ダニエル書 9 章 25 節」で預言された日です。天使ガブリエルが、ダニエルに、救世主がいつ来られるのか、正確な日にちを告げています。正にその日です。そしてこれが、その日です。事実、パリサイ人たちがイエスに、群衆が歌っているその歌を歌うのを叱るよう言った時、彼らが歌っていたのは救世主のために書かれた歌だったからです。それが理由です。私たちはこの詩を部分的に歌います。

「詩篇 118 篇 24 節～26 節」神の御言葉をお読みします。一緒に 24 節を歌いましょう。

詩篇 118

24 これは主が設けられた日。 この日を楽しみ喜ぼう。

25 ああ主よ どうか救ってください。 ああ主よ どうか栄えさせてください。

そして 26 節、

26 祝福あれ 主の御名によって来られる方に。私たちは主の家からあなたがたを祝福する。

これが彼らのその日でした。

そして、「この日おまえも知っていたら——。」無知で、知らなかったのではなく、というより

「もし彼らが知っていることを信じて、本当に知っていたなら」です。何を知っていたのか。「平和に向かう道を知っていたなら。」皮肉なことに、平和の君と知られているイエスが、愛する都、平和の街という意味のエルサレムを嘆いておられます。ヘブライ語でこの平和という言葉はギリシャ語にも表現されていて、「神に関する事」の意味であるのを理解する必要があります。完璧な関係です。神との関係があるからこそ、神との完全な平和があるのです。それが平和です。ある解説者が言います。「真の平和とは、神との平和である。創造主が、どのように喜んで休息され、応答されるのか。被造物が、創造主に対してどのように自発的に休息し、応答するのか。それが完全な平和である。」これこそが、終わりの時に大切

な唯一の平和です。その平和を、ほとんどの人が知ろうとしなかった。聖句から分かるのは、拒否者は自分の運命を決定したことです。そういう平和への応答に欠け、その結果、彼らの目からは隠された。彼らの目から、平和が隠されたのです。それが起こると、特にうなじが固い者は、心を頑なにしていきます。しかしこれを考えてください。それでも、私たちの主は全てを知りながら、エルサレムがご自分を憐れまなくとも、エルサレムを憐れられました。イエスに憐れむことがないにもかかわらず 主は都に入り、御自身を示されました。主はオリーブ山の麓で立ち止まり、こう仰ったではありません。

「エルサレムには希望がない。さあ、ついて来なさい。他へ行こう。他でこの集まりをしよう。」
違います。主は推し進められました。拒絶されることを知っていながら入られました。この聖句から得られる教訓の中で、私にとってこれは、私たちが同じように適用できる最も重要な教訓の1つと思います。特にこんにち、私たちが知っている人類の最後の時に。それは、この国を率いる大多数の人々や、おそらくこの国にいる人々が、私たちに対する思いやりを持たず、拒絶しようとも、私たちは自国を思いやる気持ちを持ち続けることです。具体的に言うと、彼らは私たちを拒絶しているのではなく、神を拒絶しているのです。そうであっても、私たちは続けるべきです。繰り返しますが、イエスは、拒絶されることを承知の上で、なおもご自分を王として示されました。私たち一人一人がそれを知り、イエスを王として示すべきです。どんなことがあっても。もちろん、その過程で思いやりを示す。拒絶されることを恐れて手をこまねいている場合ではありません。王の王だけが、誰の目が永久に曇ったままかをご存知な唯一の方です。私たちにそれは分かりません。私たちは推測することができますが、分かりません。ですから私たちは、慈愛の涙を流し、最後まで王を示し続けねばならないのです。私たちの国は、私たちの王について知る必要があります。どうやら彼らは忘れてしまっています。彼らは私たちの王を見て、王についてを聞き、私たちの中に王がおられることを知る必要があります。王の王が彼らにこう仰るまで

「あなたがたが知っていたのなら。」それは主の御働きです。主がそうなさる時、私たちの心は休息するでしょう。そわそわしません。あるいは、状況を変えるために自分の力で操作しようとしません。違います。それは神にしか御出来になりません。この国を本当に愛している人がいるなら、またどこの国であっても、本当に愛するなら、人々に王を示す。

そして彼らが主を拒絶するのを選ぶなら、私たちは涙を流し、泣き、他の人に王を示し続けるのです。私たちに、王国の福音を伝えるのを止める許可などありません。イエス・キリストの福音を。どんなに涙を流しても。

では、聖書の中でイエスが泣かれたと記されている最後の出来事は、ゲツセマネの園での力強い祈りの時です。でも福音書にはありません。「ヘブル人への手紙5章7節」です。御言葉をお読みします。

ヘブル 5

7キリストは、肉体をもって生きている間、自分を死から救い出すことができる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって祈りと願いをささげ、その敬虔のゆえに聞き入れられました。

ここでヘブル人への手紙の著者は、聖霊によって、ゲツセマネの園へと導きイエスのこの涙を記したのです。ここで私たちの主は、服従の涙を流されました。その夜、3回に渡って祈りに行かれたことが、御言葉に書かれています。また御言葉は、イエスの魂は死に対してさえ非常に悲しんでいたと語ります。それを考えましょう。世の救い主が、死に向かわれる事にそれほどまでに悲しまれている。どんな気持ちだったのか？ それでイエスは、悩んだら、誰にでもできることをなさいます。御父へ泣き叫ぶのです。最初の祈りがすべてを物語っています。誰もがよく知っていますね。救い主から御父への御言葉はこうで

す。

ルカ 22

42 父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように。

ここにあるのは、完全な神への降伏です。神の子だけが成し得ることです。要するに、私たちの誰もこのような従順の涙を流すことはできません。私がさらに素晴らしいと思うのは、すべてを神の御心に委ねた後に、主が何をなさるのかです。何が起こるか知りながらです。次になさることはこうです。イエスは、ご自分が戻られるまで、一緒にいる者や、ご自分を信じる者たちを祈るために出かけていかれました。その祈りは、今もお答えられています。信じる者はすべて、私たちの主であり救い主イエス・キリストの祈りの下に覆われています。主がこれから背負うものに対する悲痛な魂で悲しみの涙で祈られたのです。イエスを悲しませたのは死ではありません。違います。御父からまもなく離されることを悲しまれたのです。人の子が、神の御子が経験したことがなかった事に。イエスはその全てを自ら進んで、決して経験したことの無い事をなされたのです。それが罪です。私たち一人一人が、大変慣れ親しんでいる事です。少なくとも私は。イエスの涙の従順さの中で、父なる神から離されます。その分離を通して、私たちが神と繋がることができるように。イエスを信じる者は皆、信仰によって恵みによって救われるとはいえ、罪を見過ごしてはなりません。罪が私たちを隔てているんですよね。私たちは、罪が故に、神から離れるべきではありません。私たちは、神が故に、罪から離れるべきなのです。先週の日曜日、JD 牧師はこの部分をお話したのです。主が望まれるなら、今日も通じるものがあります。「ヤコブの手紙 4 章 9 節」神の御言葉をお読みします。

ヤコブ 4

9 嘆きなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。

何に泣くのか？ 罪に泣くのです。喜ぶべきことではありません。私たちの救世主は、そのために死んで下さったのです。なぜ、それに甘んじようとするのでしょうか。イエスは全てを懸けられました。私たちは、イエスのような従順の涙を分かち合うことはできないとしても、本当の従順のための涙を流すことはできます。皆さんついてきていますか？ 私たちは、父なる神に、従順の心を求めて泣き叫ぶことができます。違いますか？ 神の御言葉に従う心と思いが与えられるよう聖霊が私たちに付き添ってくださるようにと私たちは泣き叫んでいるのでしょうか。それとも、罪の赦しだけを求めるのでしょうか？ 良い事です。誤解しないでください。しかし、私たちは従ったほうがいいのではないですか？ 私たちは、自分の人生で、罪をどれだけ深刻に受け止めているのでしょうか。どうです？

(木曜礼拝) で、イスラム教について教え、私の従兄弟たちがどのように生活しているのかについて話しました。もちろん違いは行いに基づいているからです。それは分かります。行いの面がないとしても、私たちは、私たちが生きていく中で、御父が私たちに望んでおられる事を知り、その心を求めるだけに惹かれているのですか？ 私たちは、世とは異なる生き方をすべきです。それが聖化です。しかし私たちは、それを求めているのでしょうか？ それを考えてください。それが、祈りの一部なのでは？ 私の人生に必要なものを捨て去りそうすれば、聖なる人生を歩めます。時に、私たちの生活は、あまりにもものんびりしすぎています。それは、私たちがとても自由だから気にしません。それがどうして神のご栄光となるのでしょうか？ でしょ？ 自分自身でテストをしなければならぬのです。これが私の思考の動きです。私が何かをするとき、あるいは何かをしようとするとき、私が実行するプログラミングはこれだけ

です。「お前はイエスの御前でこれをするのか?」「自分のしたことをイエスに言いに行けるのか。イエスはお前を褒めて下さるのか。」そう、私たちはみんな墮落しています。未だに罪びとです。しかし本当に従順であることを涙に至るまで求めるべきです。これは、私たちを罪悪感でいっぱいにするためや非難するためには全くありません。これは、神の御霊に私たちへ罪を示して頂くためです。そうすることで、私たちは主に近づき、罪から離れます。それが、私たちの目指すべき姿です。主が私たち皆のためにしてくださったことを知ること。すべての愛と涙を最初に見せて下さった。それが私たちを、真の生ける神の御腕の中へと涙と共に駆り立ててくれるはずで。しかし、かの日が来ます。わたしの聖人、罪びとたちよ。イエス・キリストの千年王国が到来すると、涙は過去のものになります。私たちは、神の御言葉の中で一連の約束があります。「黙示録 21 章 3 節から 4 節」に記されています。神の御言葉をお読みします。

黙示録 21

3 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。」

4 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しきもない。以前のもものが過ぎ去ったからである。」

「以前のもものが過ぎ去ったからである。」全ての涙がぬぐい取られ、消え去る。これが、キリスト・イエスにある者が、期待する事です。待ちきれません。そう、イエスの千年王国時代には、涙も少なくなります。しかし、全てが新しくなり、永遠が始まります。全ての涙が消えるのです。その全てです。私たちは、イエスのお陰でこの一部になれるのです。イエスは、人間のところへ来られ、人の子として、涙を流されました。イエスはまた、来たるべき王として涙を流されました。そしてイエスは、神の御子として涙を流されました。全てに従順と愛であられたのです。イエスを選ぶすべての人が、その一員となれる愛なのです。しかし質問は、いつか、すべての涙が拭い去られるイエスの涙を受け入れたいですか?それとも永遠に泣き続けることを選びますか?なぜ主を選ばないのか、私には理解できません。主に泣き叫び、罪から救われてください。神は、私たちが神と和解することを望んでおられます。

そうです。ロケット科学者でなくてもできることです。シンプルです。子どもにも分かるほどシンプルです。イエス・キリストの良い知らせによって、瞬時にできるのです。

イエス・キリストの福音とは、キリストは私たちの罪のために死なれ、聖書によると、葬られ、3日目によみがえられた事。救われるのは、実にABCというシンプルさです。

A: 自分が神に背いた罪びとであるのを、自分には”救い主イエス・キリスト”が必要だと Admit/認める Acknowledge/認識する。

ローマ人への手紙 3 章 10 節に書かれています。

「義人(正しい者)はいない。一人もない。」

ローマ人への手紙 3 章 23 節がその理由、

「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、」

自分の実力だけで御国(天国)に入れる人はいません。そういう仕組みではありません。

ローマ人への手紙 6 章 23 節が物語っています。

「罪の報酬は死です。しかし、神の賜物は私たちの主キリスト・イエスによる永遠の命です。」

それが A です。次に B です。

B: Believe/信じる。C: Confess/告白する。

B・C共に、ローマ人への手紙 10章 9-10節にあります。お読みします。

「あなたの口でイエスは主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。」

「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」天国と地獄は現実です。すべてが終わったとき 私たちはどちらかの場所にいることになります。チャンスは一回だけ。天国に行く方法は一つです。それが、キリスト・イエスを通してです。主は御言葉の中で、具体的に次のように述べておられます。「第二ペテロの手紙 3章 9節」、

II ペテロ 3

9主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを（それは来ます）遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。...（理由は）...だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

誰も滅びることなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられます。生まれてきた人はみんな、自分は何か間違っていると思っているはずです。私たちは、罪のせいで、捕まっているのです。解決策は、イエスです。私たちの誰もが受け取るに値しないこの無償の贈り物を拒否しないでください。いつか振り返った時、あの流した涙全てに価値があったと分かるでしょう。ご起立ください。祈りましょう。天のお父様。主よ、あなたのご忠実さに心から感謝します。あなたが流された涙に感謝します。主よ、私たちがこの暗闇の時代に、あなたに泣き叫ぶとき、どうか私たちの魂を高め、あなたに従順になり、あなたの完全な御心を実行するために与えられた時間を活用できるようにしてください。私たちの心に、あなたのためにもっと真剣に生きたいという願いを置いてくださいますように。なぜなら、最後に大切なのはあなただけだからです。主よ、このことを知りながら、あなたの教会を力づけ、私たちが忠実であり続けるようして下さい。あなただけがそれを御出来になられることに感謝します。あなたの御力と強さによって、私たち一人ひとりの前を進んでください。私たちはあなたを愛し、あなたに感謝し、あなたを求めて叫びます。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7